



MAEZAKI



「いっぱい拾ったね」

特集

笑顔の連鎖

11月18日、エコパークに取材に行くと益田倅羽ちゃん（大山区）と赤沢心菜ちゃん（上岬区）に出会った。楽しそうな声に引かれて近づいてみると、両手いっぱいのどんぐりを見せてくれた。



至
・
牧之原市



★御前崎港緑地帯
(エコパーク)

御前崎魚市場を右手に見て、ヤシの木道路を牧之原市方面へ進む。「御前崎港」信号の次の信号を右折し、すぐに左折すると左側に駐車場が設けられている。

至
・
御前崎灯台

多肉植物の苗を植えるエコクラブ会員。
作業中はいつも笑顔が絶えない。

特集

笑顔の連鎖

御前崎港の一面にある御前崎港緑地帯（エコパーク）
ここに咲く花は植物の花ばかりではない
今日も花だんの手入れをしながら、会話を弾ませながら
いくつもの「笑顔の花」が咲いている
なぜ人は笑顔になれるのか
御前崎エコクラブの活動を追いながら
このまちが笑顔でいっぱいになる可能性を探る



昼なお暗く草木が茂っていた10年前のエコパーク
今の美しい姿は、決して昔からだったわけではない
10年以上の歳月、手をかけ時間をかけ
よみがえらせた人たちがいる
笑顔の原点は「思い」だった

道のり



1 傾いてしまった木を切る山本
作一さん 2 エコクラブの会員
が手を加える前の公園。まるで
ジャングルのように。既存の歩道
すら見えない 3 エコパークは
湿地帯で水はげが悪かった。改
善するために、ビニールシート
で水の通り道を確認し、その上
に材木業者で不要になったウッド
チップと碎石を敷き詰めた
4 草木を刈り、軽トラックへ積
み込む会員。今では、ヤシの木道
路から公園内の様子分かるほど
整備された



ジャングルを 人が憩える公園へ

御前崎港の一面に、住民の憩いの場所「御前崎港緑地帯（エコパーク）」は設けられている。敷地の広さは約2・5畝。実に、サッカーコート3面分以上だ。本来ここは自然があふれ、人の手で管理され、人々が気軽に立ち寄れる場所となるはずだった。しかし、その広さ故に管理が行き届かず、荒れるに任せた状態になっていった。それが10年以上前の話だ。

御前崎エコクラブ発起人の小澤慶司さんは、当時を振り返ってこう話す。

「エコパークは、基本的に県で管理していましたが、地元女岩区でも草刈りをしていました。でも、月に何回かの作業ではらちが明かず、そのうち、参加者も減っていったと聞きました。荒れてしまったこの土地には、セイタカアワダチソウが、まるで森のように生い茂っていました。エコパークの横を車で通過しても中の様子は見えず、風も抜けないため、一年中どんよりとしていて、恐る恐る歩くような公園だったんです」

そこで、整備に乗り出したのがエコクラブだ。エコクラブは、環境保全の必要性を切実に感じていた小澤さんが「子どもたちや御前崎の未来を守りたい」と平成10年に発足させた団体である。

同クラブ会員には、旧御前崎町のまちづくり委員を兼ねていた人が大勢いた。ある時、まちづくり探検隊でエコパークを視察し、ひどく荒れ果てた様子を目にする。その惨状に心を痛めた会員は、ここを再生させようと話し合った。

「自分たちに何かできることはないかと、みんな感じていました。検討の末、干からびた池をビオトープの池にやみがえらせようと決めました。ビオトープを勉強するために、牧之原市へも視察に出掛けました。ビオトープが完成し、初めて子どもたちが遊びに来てくれた時は、本当にうれしかったですね」

しかし、ある時小澤さんは、いまだ公園全体がうっそうとした草木で覆われていることに気が付いた。同クラブ会員の山本貴美枝さん（後の同クラブ会長）に相談を持ち掛けた。山本さんは「せつかく子どもたちが遊びに来てくれる

公園になったんだから、もつといい場所にしよう」と応え、二人の意見が一致。他の会員も賛同し、公園全体の整備が始まった。

草刈り、木の伐採に始まり、合間を見ては花を植えていった。雨風を凌げる場所がほしいと、会員の手で休憩所を改装した。そんな地道な活動を10年以上続けた結果、ザリガニを捕まえたり、ドングリ拾いを楽しんだりする子どもや花を見ては、顔をほころばせる大人たちを見かける公園へと生まれ変わった。

小澤さんは「みんなの思いが一つになって、魅力あふれる公園に生まれ変わりました。人が憩い、たくさんの笑い声が聞こえる公園になりました」と目を細めながら話した。

※ビオトープ…生き物が住み着くことができる場所

エコパークを
笑顔あふれる場所にしたかったんです

御前崎エコクラブ事務局長

おざわ けい じ
小澤慶司さん(下岬区)



魅力

休憩所の中に置かれている一冊のノートには、この場所を訪れ、心癒された人々の気持ちがこぼれている。ページをめくりながら、思わず読む人も笑みがこぼれる。

写真、初めて見ました。こんなにたくさんの方が花が咲くんですね。いつもありがとうございます。またきます。 10/17 中山

先日も散歩してきたと2日気持ちがとてもよかったです。また来ます。エコパークのお花、木陰の涼を通りかした時は、涼しかったでしょう。静かな場所、お花もとても綺麗。 11月良一日

初めて花小屋を知りました。色々な花の写真に感動しました。ステキな出会いをありがとう。

どんぐりがとれなくてざんねんでした。でもこのどんぐりとどんぐりのほっしりが大きくてびっくりしました。景
じゅず玉が白くなっていてちょっとおそろたみたいで、でもまた来年にはいっぱいみたいです。景

11月4日 素晴らしい秋空に誘われて久しぶりに散歩しました。8時の母と子とで西の端まで歩いてきました。「ま〜す(ゴ?) ぶじいねえ〜!」「え〜! 氷っっじ?! 氷っっねえ。葉の色もツヤもいいね〜!」「土がアワアワだね〜! 氷っっねえ。木や花も元気もいねえ!」「これー?!! ういおっねえ。感激のしどうでした。こんなでいい自然を丹精して海近く(塩害)とと海の花 緑もすてきでした。エコパークの方々の努力に感謝します。 美津子

いろいろの花があり = こんなにたくさんの方が花があるなんてしていませんでした。いろいろ新しくなった所がたっ多くなってちょっとびっくりしました。また来たいです。 1/7 山本



1 エコパークには、季節ごとにたくさんの花が咲き誇る。美しい花を見ようと地区のハイキングコースにも選ばれる
2 休憩所の中には、エコパークに咲く美しい花々の写真が所狭しと掲示されている



◀エコパークだけの「ドンブチ染め体験」

ドンブチ染めは、池新田にあるドンブチと呼ばれる井戸の水を利用する。井戸水が、発色作用のある鉄分を多く含んでいることから、染物用井戸として大正時代から愛用されていた。染料となるのは木の皮やイマメの新芽。ドンブチ染めは抗菌防臭効果があることも分かっている。当時の技法を継承する団体は、市内でエコクラブのみとなってしまった。同クラブでは、その伝統的な染め方を後世に伝えていくため、定期的にドンブチ染め体験を実施している。

エコパークは園児に大人気の公園です



よこ やま さと み
横山里美 副園長（御前崎幼稚園）

自然と触れ合える公園なので、課外授業はエコパークを利用しようと、先生同士で相談していたんです。実際に公園に行くと、園児たちは、ドングリ拾いやシラス網で作られたハンモックに乗って大はしゃぎでした。「またエコパークに行こうよ」という園児の声も聞かれます。

大人も自然を満喫できる公園ですね



さぎ さか ゆ き こ
匂坂由紀子さん（下岬区）

公園がきれいに整備されていて驚きました。子どもだけではなく、大人も自然と触れ合うことができますね。花がきれい、とても癒されました。エコクラブの人が、子どもに貝殻をくれたのですが「海と電話してるんだ」と今までに見たことがない一面も見ることができました。

エコパークの自慢。それは、何ととっても美しい姿を見せる四季折々の花々だろう。廃材などを利用して作られた花だんには、350種類を越える花が季節ごとに咲き乱れ、訪れる人たちの心を和ませる。この花々は、エコクラブ会員が種から育てたものや他の団体から譲り受け、会員が地道に増やしていったものだ。経費は最小限に、美しさは最大限に。まさに「エコ」パークの名に恥じない部分といえる。公園内には、数十年に一度しか花を咲かせないリュウゼツランも群生している。今年が

まさにその年だった。9月には愛らしい黄色い花を咲かせ、県内外から訪れた来場者の目を楽ませた。この魅力は花だけではない。駐車場奥の並木には、シラス網で作られたハンモックがあり、子どもたちに大人気。来場者が多いときには行列ができるほどだ。ビオトープの池には水生生物が生息し、夏にはザリガニ捕りする子どもたちの歓声が聞こえてくる。野鳥や珍しいチョウ、昆虫も頻繁に確認されることから、研究者やカメラマンからも足繁く通っている。

エコパークのほぼ中央に立つ休憩所。その中にある石机の脇に、一冊のノートが置かれていた。「ここに、こんなにたくさんのお花が咲いているなんて初めて知りました」「散歩がてらに寄りました。心が和みます」「美しい花々に感動しました。また来たいと思います」「自然豊かなこの公園が大好きです」など、この場所を訪れ、心を癒された人々の声がつづられている。手にとつて読み進めるだけで、自然と笑顔になってしまう。さまざま魅力にあふれる憩いの公園、それがエコパークだ。



笑

顔の理由



エコパークの整備に携わっている会員たちは
ボランティアなのに活動中はいつも笑顔が絶えない
実に楽しそうだ
その理由とは何なのか

活動の原点は 港に対する愛情

12月4日、日曜日というのに、10人以上の会員が参加し活動が実施された。会員は、花の写真や花の特徴が書かれた紙を、談笑しながら看板となる木に貼り付けていた。

エコクラブは、毎月第3日曜日が活動日。それ以外でも参加できる人は、自主的に作業に取り組んでいる。

会員の一人、藪田美千代さんは「私は、生まれも育ちも御前崎でね、ずっと港が身近にあったんです。しかも、父も夫も漁業関係者。余計と港に対する思い入れが強いんですよ。以前、ここへ子どもを



連れてきたのですが、港の近くがこんなに荒れているのかとがっかりしたんです。そんな時にエコクラブの活動を知りました。自分の大好きな場所だから、何とかきれいにしたいくてね、作業に携わろうと思ったんです」と話す。

エコパークをきれいにしたいと活動に取り組んでいる

やぶ た み ち よ
藪田美千代さん(広沢区)



来訪者の笑顔を見ることがうれしい

大澤達夫さん（西側区）

Osawa Tatsuo

エコパークは、自然豊かな公園です。植物や昆虫もたくさんいます。ザリガニを捕まえに来て楽しんでいる子ども、花を見ては笑顔になっている人たちを見ることがうれしいんですよ。ここは植物の成長過程や昆虫の生態系が勉強できる貴重な公園です。そんな魅力ある公園をいつまでも残していきたいですね。



人との出会いで新たな学びがある

川口廣司さん（新谷区）

Kawaguchi Hiroshi

仕事の都合で思うように活動に参加できませんが、ここへ来るとたくさんの学びがあるんです。大正時代から伝わるドンプチ染めや花の育て方などが勉強になりました。活動に携わっていなかったらこんな経験できなかったと思います。大勢の人とも知り合いになることができ、人のネットワークも増えました。



育てた花を見てくれることが張り合い

齋藤まつえさん（白浜区）

Saito Matsue

私は花が好きで、家で花を育てたり増やししたりしています。でも家の庭だけだと家族だけの楽しみになってしまいますよね。そこで、たくさん苗ができてエコパークへ持ってきて植えています。大勢の人が、自分の育てた花を見て笑顔になってくれる。それがうれしい、張り合いにもなっています。



自然を生かした公園作りが楽しい

松下速雄さん（薄原区）

Matsushita Hayao

仕事で船に乗っていたこともあり、港に対して特別な思いがありました。自然と触れ合うことも昔から好きでね、子どものころは野山を走り回って遊んでいたものです。今こうして、港の近くにある公園を、たくさんの自然を生かして作り上げることに楽しさを感じています。

「思いだけで始めた作業も、やりだしたらとても楽しくなりました。活動初日は、とても達成感があったことを覚えています。今では、訪れてくれた人が自分の育てた花を見て、喜んでくれる姿を見ることが楽しみなんです。『花がきれいだね』と言ってももらえると、心の底からうれしくなります。それが、私のエネルギーになっていきますね。1時間でも時間が空くと、自然と公園へ足が向いています。作業中は、どうすればここへ来てくれた人が喜んでくれるか考えながら作業しています。他の会員との会話も楽しみの一つ。いろいろな人の考え方も、生活する上で参考になっています。おかげで、思考が柔軟になりました。心が豊かになった気がします」

「大澤さんや川口さん、齋藤さん、松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」

「齋藤さんや松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」

「齋藤さんや松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」

「齋藤さんや松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」

「齋藤さんや松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」

「齋藤さんや松下さん、大勢の皆さんが活動へ突き動かしたのは、大好きな場所だからきれいにしたいという、単純な思いだった。でも、自分が育てた花によって、人が笑顔になってくれることにうれしさを感じた。会員同士の触れ合いが心の充実も生み出していた。自分自身がプラスに感じる部分がたくさんあるからこそ笑顔で続けられるのだ。」



作業中も何気ない会話から笑みがこぼれる

作業をすることで得るものがある

ボランティア活動という、時間の制約を受けるし、作業も大変というイメージがある。しかし、藪田さんの話を聞くとは、そんなマイナス面ばかりではないことが分かる。



笑顔の花が咲くのは作業中だけではない
会員にとっては休憩のひとつも楽しみの一つ



よこやま さちこ
横山幸子さん
(広沢区)

自分自身も成長できるんです

私は、山本会長の人柄に引かれて活動に参加したといっても過言ではありません。

公園がまだ荒れていた当時のことです。「エコパークは県の管理地。だから県が整備すればいいんだ」。そんな声が聞かれていました。山本会長は「御前崎を訪れた人は、県の管理とか分からないでしょ。このままだと御前崎が荒れたまぢだと思われてしまう。利用するのは住民だし、自分たちのまぢだから、自分たちで整備しよう」と言っただけです。御前崎にはすごい人がいると思えました。自分の家の庭は、誰だつてきれいにします。でも、それ以外となるとためらいます。しかし、山本会長は、エコパークを良くしたいとい

う一心で、毎日作業に励んでいました。そんな姿に感銘を受けたんですよ。

作業中は、みんなで井戸端会議みたいな話をします。山本会長や会員の皆さんは、いろいろな考えや知識を持っていらつしやるので、話を聞いていられるだけでも勉強になります。その中で、悩みも聞いてくれるし、それに対しアドバイスもしてくれます。耳寄りな情報もたくさん教えてくれるんですよ。

ここでは、尊敬している人や親身になってくれる人々と時間を共有できるし、自身も成長できます。だから、みんなと一緒に作業していると、自然と楽しい気分になるんですよ。

つながる笑顔の輪

活動が始まってから13年がたつ

その間、市外からの新会員や自発的に活動に協力する人、企業まで現れた新たに活動に携わった人たちは、活動をどう感じているのか



達成感があります
山本 儔さん (佐倉一区)
Yamamoto Hitoshi

昨年開催されたエコパークまつりで、こんな素晴らしい公園があることを知ったんです。広大な場所を、エコクラブの人がボランティアで整備していると聞き驚きました。港は御前崎の自慢の一つだと思っていましたし「自分たちのまぢだから自分たちで何とかしよう」という山本会長の考えにも共感し、妻と2人で、できることを手伝おうと話したんですよ。作業後にきれいになった場所を見ると達成感がありますね。



花を育てることが楽しい
鈴与(株)取締役御前崎支店長
江川央生さん
Egawa Hisao

昼休みに公園を散歩したんです。エコクラブの皆さんが、公園を整備していたことは知っていましたが、実際に歩いてみて、この場所を良くしようという思いが伝わってきました。港内に会社がありますし、この場所を通る人に、少しでも気持ちよく帰ってもらえたらと思い、一緒に汗を流そうと思いました。休憩所北側の花だんの管理を任せてもらっていますが、大変ですね。でも、花を育てることが楽しくなってきました。



作業が形になるとうれしい
永田孝行さん (牧之原市)
Nagata Takayuki

たまたま仕事でエコパークの横を通り掛かって、一人で一生懸命草取りをしている山本会長を見かけました。話を聞くと、エコパークを人が憩えるような場所にしたいんだと熱い思いを語ってくれました。それを聞いて自分も手伝おうと思ったんです。当時、私は精神的にも不安定だったのですが、このクラブの活動に参加したことで自分自身が再生できたと感じています。携わった作業が形になるとうれしいです。

作業を一日体験する 11月20日(日)

土をいじり、汗をかく

本当に活動で笑顔になるのか
実際に体験するとその魅力がじかに伝わってきた
広報担当が作業を体験した

前日の大雨も上がり、雲の間から光が差し込んでいます。公園内には散歩する人や花を観察している人がいます。

9時を過ぎると会員が集まりだした。休憩所の外で、山本会長が大澤達夫さんに「水神公園どんどんは、小川のところにロープが張ってあるでしょ。子どもたちが小川に近づけないって言うていたよ。このままじゃ寄り付かなくなっちゃうんじゃないかな。ホテルの赤ちゃんがいるから入らないでねって看板を書けば、子どもは自然と気を付けるよ」と話していた。発想を変えるだけで、誰も嫌な思いをせずに注意喚起できる。相手の立場に立って考え、分かりやすいメッセージを投げ掛ける大切さを教わった。

この日の主な作業は、子どもが登って楽しむことができる「カメの形をした丘」を完成させること。普段使うことのないスコップを片手に、作業現場へ向かう。10時前、碎石が到着した。みんなスコップやジョレンを持って集まる。ある人は、地面にカメの足の形を書いていく。ある人は、地面に広げられた碎石をスコップでならしていく。私は、トラックから下ろした碎石を一輪車で足の部分へ入

れる作業に当たった。普段やることのない作業に、腕も足もパンパンに張った。しかし、どンドン出来上がっていくカメの丘を見ると、楽しくてたまらない。会員の間では「来てくれた子どもたちは喜ぶだろうね。どんな顔するかな」と期待に胸を膨らませる声飛び交っていた。約2時間後、カメの丘が完成。「やった、出来た。早く子どもたちが遊びに来ないかな」。達成感と期待感でいっぱいになった。

午後は、花だんの草取り。作業中はいろいろな話が飛び交った。「リュウゼツランの花茎の部分を発酵させるとテキーラができるんだよ」と山本作一さん。また新たな発見があった。

空がオレンジ色に染まってきた午後4時ころ、作業は終了。普段の生活で生かせることや新たな学び、楽しさや充実感を得られた一日だった。車の窓ガラスには笑顔の自分が映っていた。



▲全員でカメの丘を完成させた

楽しさや充実感を得られた一日
気が付いたら、笑顔になっていた





放っておけなかった ここに、愛着があるから

自慢の港近くの公園 再生させたかった

私は子どものころ、よく港坂で遊んでいたんです。その向こうで、港の建設が進んでいました。父が漁業関係者だったというところもあって、完成するのをとても楽しみにしていました。広いし、立派だし、大きな船も入港する。灯台と並ぶ御前崎の代名詞が出来たと思えました。いつしか、自分の自慢の場所に

もなっていましたね。だからこそ、港近くの公園が荒れた状態にあることを放っておけなかったんです。作業の必要性を感じました。周囲の人からは、県の人たちがやればいいんだという声も聞かれました。でも、見て見ぬふりできなかつたんです。みんなできれいにしようとして小澤さんと一緒に、会員に呼び掛けました。みんなこの公園を何とか再生させたいと思っていました。ビオトープ作りに携わつ

たことで、愛着も湧いていたんです。快く賛同してくれました。雨が降っていても、毎日のように足を運びました。13年たつた今も、大好きなこの場所を輝かせたいという一心で、作業を続けています。

最近では、散歩で利用してくれる人も増えたとし、幼稚園や小学校の子どもたちも遊びに来てくれるようになりました。バスを利用して、市外から公園を訪れてくれる団体もあるんですよ。

みんな「また来るでね」と笑顔で帰ってくれます。その姿をみると、本当にうれし、続けてきたかいがあったと感じます。大勢の人が訪れてくれる公園に出来たのは、私一人の力ではありません。会員の協力がなかったら、こんなに整備できなかったと思います。全員で「エコパークをきれいにしよう。人が憩い、笑顔があふれる公園にしよう」と取り組んできたから今の形があるんだと思います。



御前崎エコクラブ会長
やまもと きみえ
山本貴美枝さん

エコパークを笑顔あふれる公園にしたいと
ひたすら走り続けてきた13年間
毎日のように作業に励む山本会長が
今までの活動を振り返る
そして、活動の良さとは何なのか
エコパークのこれからを
語ってもらう

笑顔づくりへの提言

関わるほどに愛着が湧く 出合いの輪も広がる

エコクラブは、ボランティア団体なのでお金はありません。でも、会員同士がそれぞれの能力や人脈を生かして公園を再生させました。よく「補助金をもたえればいいじゃないか」と言われます。でも、お金はもらわなくてもいいんです。私たちは、行政のために作業をしているわけではありません。自分たちの暮らすまち、自分たちが誇れる大好きな場所だから、自分たちで考えて、汗を流して作り上げているんです。

みんなで力を合わせれば整備できるし、それが形になっていく姿を見ていると楽しくなつてきます。関われば関わるだけ愛着も湧いてきます。私は、エコパークが自分の子どもみたいでかわいいんですよ。気が付くと、地味な草取りをしているときも笑顔になっていますね。

私は、この活動を通じて会員や港湾関係者、公園を訪れた人など、数え切れないほどの人と出会いました。青森県の人とは、何年もお互い行き来があります。団体の皆さんとも相互の交流が続いています。活動に取り組んでいなかったら、こんなにたく

自分たちが誇れる場所だから、自分たちで作る活動は楽しいし、自分自身が成長できます



1945年生まれ。大山区在住「御前崎エコクラブ」会長。静岡県地方港湾審議会委員。自然体験活動推進協議会CONEリーダー。花咲くしずおかアドバイザーなどを務める。

さんの人と出会うことはなかったでしょう。困った時には、みんなアドバイスしてくれますし、その中で、たくさんの考え方や知恵、技術も学ぶことができました。活動をしていなければ、今ののように、毎日が幸せだと思えるような人生を送れていなかったと思います。

私は、このまちに住んでいる人の中には、きつと「ここを良くしたい」とか「あの場所をきれいにしたい」と感じている人がいると思います。そんな人たちには、ぜひ気軽に一歩踏み出

してほしいです。だって、活動は良いことばかりなのですから。

いつかは子どもたちが 自慢できる場所に

13年前に始まった活動がようやく実を結び、大勢の人が訪れてくれる公園になりました。私は、作業途中でもなるべく訪れてくれた人に話しかけるよう心掛けています。エコパークの自慢をするわけではないのですが、せっかく訪れてくれたのだから公園を満喫していつてもらいたいし、ここへ来て学んだものがあつたとか、楽しかったって思いながら帰ってもらいたいんです。本来、公園というのはそういう場所であるべきだろうし、来てくれた人の心の中にエコパークの印象が残れば、また来てくれると思うのです。

いつの日かこの公園を、子どもたちが訪れてくれた人の手を引いて「こつちにはこんな花があるんだよ」と自慢をしながら案内してくれるような場所になりたいですね。そして、まちの人が他市町の人に御前崎を紹介するとき、名前を挙げてもらえるような公園となるよう、今後も楽しみながら、整備していきたいと思っています。

▶山本会長が愛用する作業道具。どれも使い込まれている。特に、ねじり鎌（通称チョンチョングワ）の刃渡りは、新品の3分の2ほどしかない。草取りに使用して、先が丸くなると、サンダーで削り、また使うということを繰り返しているうちに小さくなっていったという。山本会長の活動に対する思いがひしひしと伝わってくる。



私たちが暮らすまち、御前崎
誰もが笑顔で
幸せに生きていける
そんなまちにするために
私たちは
何ができるのだろう



思いは幸せを生み 人も場所も笑顔にする

エコクラブの会員たちは、誰かから指示を受けるのではなく、自分から率先して、作業に取り組んでいる。ある時、会員の藪田美千代さんは「公園の周りの側溝に落ち葉が詰まっているから、かき出してくるよ。そうしないと水があふれるし、見栄えも悪いでね」と

今日もまた、 笑顔が広がっていく

公園に遊びに訪れた藤田久美子さん親子（牧之原市）と大橋麻美子さん親子（焼津市）、山崎純さん親子（上押区）。カメの丘にみんな登って遊ぶ顔は、楽しさであふれていた。

言って、一人で作業に向かった。その姿を見て、この場所が本当に大好きなんだな、大切にしたい場所なんだなと感じた。そんな会員たちの思いが、今の美しいエコパークを形作った原点なのだと思う。

会員たちは笑顔で生き生きと活動に汗している。携わること、自分自身の幸せが生み出されているからだ。どの会員も「作業するのが楽しい」「ここへ来た人の楽しそうな顔を見るとやる気がでる」「達成感が得られるんだよ」などとこやかに話す。活動が幸せを生んでいるからこそ、大変な作業も笑顔で取り組める。そんな好循環が、エコパークを美しく魅力ある公園へと、日々進化させているのだろう。

笑顔は連鎖する 幸せな人が増えていく

笑顔は、今この時も会員たちの思いに共感した人へと広がっている。会員の笑顔が、幸せな人を増やしている。それだけではない。魅力ある公園に生まれ変わったことで、訪れる人も増えた。会員も市内外から訪れた人もみんな笑顔。エコパークでは、今日も笑顔の花が咲き誇っている。

取材後、エコパークを散歩すると、作業する会員の傍ら、完成したばかりのカメの丘で、楽しそうに遊ぶ親子がいた。その光景を見た自分自身も、自然と笑みがこぼれていた。



笑顔の連鎖 終

▼市内の小中学生が、美しい歌声を披露し来場者を感動させた



文 第7回御前崎市文化祭 文化に触れて心を豊かに

●●● 11.5

市文化祭の開会式が11月5日、市民会館で開かれ約700人の市民が参加しました。式典後は、市内小中学生の合唱や文化協会所属団体による民謡などが披露され、来場者を魅了しました。

芸能部門に先駆けて図書館では、10月25日～30日の前期と11月1日～6日の後期に分けて書道や手芸、水墨画などの作品が展示され、訪れた市民を和ませていました。

まちかど 探訪

-Event of town-



冬の渡り鳥 マガモ
桜ヶ池

▼それぞれのチームが心を一つにして熱戦を繰り広げた



子 ママさんバレーボール大会 育て世代の親睦深まる

●●● 11.6

家事や育児に追われて忙しい母親同士の交流や健康増進を目的に「第8回ママさんバレーボール大会」が11月6日、浜岡中学校体育館で開かれました。

大会は、市内から12チームがエントリー。参加者は、チームメイトを励ましたり、1点取るたびに喜び合ったりして絆を深めていきました。応援に駆け付けた家族や仲間の熱い声援を受け、他チームを圧倒したのは、朝比奈地区のウインズ。2年連続の優勝となりました。

火 今年も火災シーズン到来 の取り扱いにはご用心

●●● 11.6

火災予防標語コンクールの表彰式が11月6日、御前崎市消防本部で開かれました。

コンクールには、同消防署管内にある11小学校の6年生573人が応募。最高位の御前崎市長賞に輝いたのは、浜岡東小学校の相羽星和さんの作品「気をつけよう 一度つけたら あなたの火」でした。同作品と消防団長賞、消防長賞に選ばれた4作品は、この冬の火災予防ポスターと同消防署で使用している消防車両に掲載されています。

▼表彰された児童と赤堀浩久消防長(中央)



みんな仲良くできればいいね

●●● 11.8



御前崎小学校の4年生が、市人権擁護委員研究会による人形劇を通じて、他人を思いやる心や命の大切さを学びました。

愛らしい花の姿に癒やされて

●●● 11.5



朝比奈ふれあいコスモスまつりが開催され、参加者は、コスモスが咲き誇る水田で秋のひとつときを過ごしました。

楽しみながら交流の輪広がる

●●● 11.6



第12回御前崎市長杯マレットゴルフ大会が高松みどりの森公園で開かれ、90人の参加者がプレーを通じ親睦を深めました。

おいしいお茶は入れ方しだい

●●● 10.31



浜岡東小学校の3年生が、総合学習で小笠茶商青年団のメンバーを招き、お茶のおいしい入れ方を学びました。

砂防林を守るみどりの少年団

●●● 10.30



第一小学校の1、4、6年生が、砂防林を守り育てる大切さを学ぶとともに、白砂公園周辺のゴミ拾いに取り組みました。

立派なお芋ができました

耕作放棄地を見事に再生

●●● 11.15

合戸地区のサツマイモ畑で11月15日、池新田幼稚園の年中児51人が芋掘り体験をしました。園児は、掘り起こすたびに出てくるサツマイモの大きさに驚きながら、元気いっぱい収穫を楽しみました。園では、収穫したサツマイモをふかし芋や干し芋にして、おやつ時間に食べました。

この畑は、市が荒廃農地対策として国の補助事業を活用し再生したものです。収穫されたサツマイモは、学校給食や新商品の研究開発にも利用されます。

▼サツマイモを掘り起こす園児の顔は真剣そのもの



地震に対する備え万全に

東日本大震災の経験から学ぶ

●●● 10.27

白羽小学校の2年生を対象に10月27日、防災講演会が開かれました。この講演会は、東日本大震災を受け、子どもたちにも東海地震に対する備えを学んでほしいと2年生のPTA役員が企画しました。

児童は、市防災課職員から地震が発生したらどう対処すればよいのか、非常持ち出し品には何が必要かといった説明を受けました。講演会では、〇×クイズや防災グッズDE買い物リレーなども実施され、児童は、ゲームを通じて知識を深めました。

▼防災課職員の説明に聴き入る児童



▼現在の遺跡の状況

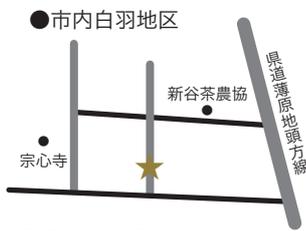


▼出土品: つぼ型土器の口縁部



埋蔵文化財包蔵地

▼出土品: つぼ型土器の胴と底部



新谷遺跡

History

キラリを再発見

御前崎台地上の弥生集落

昭和40年、白羽地区にある宗心寺の東側に農道をつくる際、削った山の斜面から竪穴式住居跡が発見されました。その住居跡からは、弥生時代中期末(約2千年前)の白岩式土器と呼ばれるつぼやかめが出土しました。

新谷遺跡のすぐ近くには、清らかな地下水が湧き出す泉があり、昭和初期までは、その湧き水の流れに沿って水田がありました。生活の場ときれいな水が近くにあること、弥生時代には稲作が始まっていたということから、同遺跡周辺でも水田耕作が営まれていたと予想されます。

白羽地区には、新谷遺跡のほかに8つの遺跡があります。御前崎町史の「原始時代」を執筆した静岡県考古学会副会長の佐藤達雄氏は「台地の上に遺跡が立地していることから、水田耕作のほかに畑作も営まれていた可能性がある」と考察しています。

Atomic

暮らしと原子力

住民の安心のために国へ要請

- ① 今後の国のエネルギー政策の見通しと原子力発電の位置づけを示すこと
 - ② 事故の原因究明と対策、除染、被災者への補償に全力を挙げる
 - ③ 原子力災害に備えた防災指
- 東日本大震災により発生した福島第一原子力発電所事故を受けて、国の要請により、浜岡原子力発電所は全号機を停止しています。その後、国からは中部電力の津波対策に対する評価や福島原発の事故原因などの報告はなされておらず、私たちの安心を判断する材料は、乏しい状態となっています。そこで原子力発電所に対する市民の不安を取り除くため、10月3日に御前崎市議会が意見書を、10月11日に石原市長が要請書を、それぞれ国へ提出しました。要請書の概要は次のとおりです。



細野大臣に要請する石原市長(中央は小山展弘衆議院議員)

- ④ 国民に信頼されるような原子力発電所の新たな規制機能やチェック体制を構築すること
 - ⑤ 浜岡原子力発電所の安全確認と評価の見直しを示し、国が前面に立つて地域住民に丁寧の説明すること
- 要請書に対する国の回答は、次号でお知らせします。

文芸

おまえざき

俳句 はまおか俳句会

重箱に詰めし煮物や秋祭り
 エアコンの温度を上げて団扇置く河原崎豊子
 一冊の書に諭さるる夜長かな
 秋燈しひとりの闇の深まりぬ 宅野須美子
 彼岸来て吹く風変わり季のくる
 蛇見たり何年ぶりや秋の土手 清水正恵
 秋灯火手擦れし辞書も身の拗り処
 秋祭り法被姿の曾孫三人 久保八重
 彼岸花空き地に狭しと肩並べ
 宿題の習字書き終え夏終わる 長嶋常子

短歌 はまおか短歌会

曾孫玄孫三十余人に囲まるる記念写真の母泣き笑ひ
 迎え火に照らふ倅の横顔が亡父に似て来ぬしみじみと見る
 驚きの海上散歩渦を待つ四十五メートル下鳴門海峡
 肩覆ふ友手作りのカーディガン丸き吾が背にほかほか温くし
 息や孫ら曾孫賑はふ手伝いに婆の一人家冬支度成る
 幼な日の師を案ずれば広報に百歳祝ふ写真に笑めり
 山下てる子
 台風に打ちのめされし草花はけなげに咲いて佛に供う
 無理という言葉の意味は広けれど幼子までが無理と手をふる
 久保八重
 一群の彼岸花咲く堤防に少女の頃の青き風吹く
 総持寺に早朝坐禅無になれず僧のすり足かすかに聞こゆ
 長嶋常子
 増田久江

Books

図書館情報

PICK_01 一般

司法記者



由良秀之 / 講談社

密室で発見された女性記者の死体と大物政治家の「政治と金」疑惑。2つの事件が交差するとき、驚きの真実が明らかになる。特捜検察の一匹おおかみと司法記者が暴く大臣冤罪事件。元検察官が、事実をベースに検察とマスコミの悪の構造に斬り込んだ。

PICK_02 子ども用

カッシアの物語



アリー・コンディ / プレジデント社

「偶然のない社会」。結婚も職業も死ぬことも、全てが定められ、迷いのない生活が守られている理想の社会。しかし、そこに暮らす少女カッシアは、迷い苦しみながらも希望を抱いて決められた平和な世界に立ち向かっていく。17歳の少女の運命を変える選択とは…。

今月の新着図書

●一般

- 任侠病院 (著者 / 今野敏)
- 建礼門院徳子 (著者 / 鳥越碧)
- キッチンの教科書 (編 / キッチン向上倶楽部)
- 奇想の天才絵師歌川国芳 (編 / 新人物往来社)
- お客に言えない! 「利益」の法則 (著者 / 小川孔輔)
- デジタルカメラによる月の撮り方 (編 / 月の撮り方研究会)
- 全国神社味詣ー幸せをよぶ参道グルメガイド (著者 / 松本滋)
- 格安エアライン LCC (ローコストキャリア) で飛ぼう (著者 / 下川裕治)
- 外国人との会話が盛り上がる! ニッポンの話題と数字 108 (著者 / 福岡賢昌)

●子ども

- あわい (作 / 染谷果子)
 - おばけサーカス (作 / 佐野洋子)
 - メン!ーふたりの剣 (作 / 開隆人)
 - すてきなひらがな (著者 / 五味太郎)
 - でんわ (作 / コルネイ・チュコフスキー)
 - クラーケンの島 (著者 / エヴァ・イボットソン)
 - もののしくみ大図鑑 (著者 / ジョエル・ルボーム)
 - スミス先生ときょうりゅうの国 (作 / マイケル・ガーランド)
- ※この他にもたくさんの本が、図書館に入っています。



PROFILE メンバーは④鈴木久美さん（佐倉二区）、⑥小川文子さん（東町）、⑦中山綾子さん（早苗町）の3人。仕事、家事、子育てをこなしながらサークル活動をしている。

子どもたちの
温かい心を育てたいんです
人形劇サークル
「ドレミ」



子どもの笑顔が
活動のエネルギ―

「大きな賞をいただき、喜びで胸がいっぱいです。子どもたちの笑顔が活動の源です」。

「第28回中日ボランティア賞」(中日新聞東海本社ほか主催)の授賞を喜ぶのは、人形劇サークル「ドレミ」の3人。サークルの立ち上げから16年、長年の社会福祉への貢献が認められ、受賞に至った。

同サークルは、市内外の教育施設や老人施設などへ出掛けては、人形劇や腹話術を披露している。最近では、市外のイベントや施設からも出演依頼がくるほど人気が高騰しているという。

10月29日に開催された市ふれあい広場では、初お披露目となる「ともだちや」を熱演。人形たちのユーモラスな動きと軽妙な話術に子どもたちの目は舞台にくぎ付けだった。

みんなを笑顔に
ただそれだけで

3人が集まるのは週1回。12時半から13時半までの1時間だけ。仕事をしているため、3人がそろうのはその時間帯

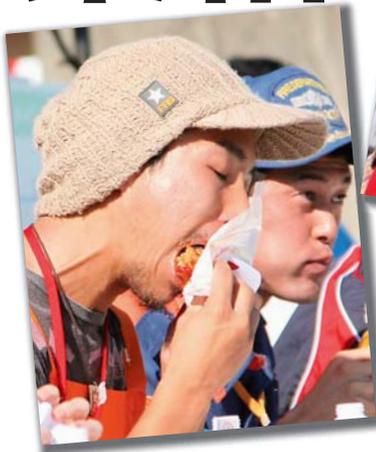
しかないという。まさに短期集中、寸暇を惜しんで練習に励んでいる。

メンバーの小川文子さんと中山綾子さんは「この活動が楽しいんです。もちろん家族の理解があつて、活動ができています。本当に感謝しています。最近では、子どもや夫までもが、劇の道具作りを手伝ってくれるんですよ。家族みんなで楽しみながら小道具作りをしています。サークルを通じて家族の絆も深まっています」とっこり。

同サークル代表の鈴木久美さんは「3人とも、好きだから続けられるんでしょうね。数年前に白羽小学校で人形劇を演じた時『親子で大笑いでき、仕事を休んで見に来たかき、仕事を休んで見に来たかきがありました』、『子どもの大笑いする姿を久しぶりに見ました』と保護者から感想が寄せられました。人形劇を続けてきて本当に良かったと感じた瞬間でした。私たちは、難しいことを考えず、みんなが大笑いできる時間を作りたいたいと思っています。一緒に活動してくれる人がいれば、いつでも大歓迎です」と笑顔で期待を込めた。

御前崎の 笑顔が PickUp! 集結した

PickUp!
注目記事



御前崎市 大産業まつり

笑顔と活気があふれる秋のビッグイベント。
市内の企業や店舗が一堂に会し
その魅力をPRする。それが、大産業まつり。

「たくさん人が来て、活気があつていいねえ」。来場者と出店者の会話から、にぎわうイベントを喜ぶ声が聞こえます。第7回御前崎市大産業まつりが11月12日と13日の両日、市役所周辺で開催され、延べ2万5千人が訪れました。会場には、特産品の販売や店舗をPRするテントがずらりと並び、活気に満ちあふれていました。ステージイベントでは、仮装パフォーマンスや市出身のMOC KYが参加する音楽グループ「Jam9」の演奏なども催され、来場者を楽しませました。



「波乗りバーガー」の美味しいコンテストでは、7分間に7個食べた浜本準士さん（大山区）が優勝。「一つ一つのバーガーに特徴があつて、とてもおいしかった」と笑顔でコメントしました。出店者の情熱が込められた商品や各種の催しが、売り手と買い手、家族、仲間同士のコミュニケーションの場を生み出し、会場は大勢の人の笑顔で埋め尽くされました。今年の大産業まつりも元気な笑い声とともに、至るところで御前崎市の魅力がはじけていました。

Information

敬老祝商品券の有効 期限は1月18日まで

敬老会の記念品として贈呈した商品券(オレンジ色)には、有効期限があります。敬老祝商品券取扱店でお忘れのないようご使用ください。

有効期限 平成24年1月18日(休)

照会 高齢者支援課

☎0537(5)1118

放射性物質自主検査 費を一部助成します

販売を目的に市内で生産された農畜水産物の放射性物質の自主検査に掛かった費用の一部を助成します。

照会 農林水産課

☎0537(5)1125

銃砲刀剣類登録審査 会は1月17日に開催

銃砲刀剣類登録をしたい人は、最寄りの警察署に銃砲刀剣類発見届を提出後、速やかに登録審査を受けてください。

日時 1月17日(火)9時30分~12時

場所 浜松総合庁舎1階101会議室

照会 県教育委員会文化財保護課

☎054(221)3156

NTT西日本の電話 帳を配達回収します

NTT西日本では、環境保護のため、新しい電話帳をお届けする際に古い電話帳を回収します。配達員へお渡しください。不在の場合は、照会先へ連絡していただければ、後日、回収に伺います。

照会 タウンページセンタ

☎0120(506)309

募集 invite information

なみっこハウスの指 導員になりませんか

小学校1年から高校3年までの障害がある子どもたちを保育してくれる指導員を募集します。

対象 65歳未満の人ならどなたでも受け付けます

勤務地 ぼっけ(旧佐倉公民館)

勤務時間 平日13時30分~17時30分
学校の長期休暇期間は1日保育となります

照会 福祉課

☎0537(5)1121

中学・高校生対象の 海外研修実施します

海外で外国語や現地の文化に触れ、国際感覚を養いましょう。

▶オーストラリアコース

日程 平成24年3月20日(火)~28日(水)

対象者 中学2・3年生

参加費 19万円

▶アメリカコース

日程 平成24年3月20日(火)~26日(月)

対象者 高校生(3月卒業生含む)

参加費 17万6千円

照会 企画財政課

☎0537(5)1112

放送大学は通信制で 幅広く学習ができる

放送大学では、平成24年度4月入学生を募集しています。心理学や福祉、経済、歴史、文学、自然科学など幅広く学ぶことができます。お気軽に資料請求ください。

出願期間 2月29日(水)まで

資料請求・照会 放送大学静岡学習センター

☎055(989)1253

人の動き

(平成23年11月末日現在の速報値)

	(前月比)
人口	35,488 (-11)
男	17,903 (-10)
女	17,585 (-1)
世帯数	11,869 (-5)

広報 今月の表紙



エコパークでドングリをたくさん拾い、喜んでいた益田倅羽ちゃんと赤澤心菜ちゃん。ドングリ拾いの後は、同公園に新しくできたカメの丘で、どちらが早く頂上まで登れるかを競争したり、母親に写真を撮ってもらったりして楽しみました。

Loss time

本号の特集を組むにために、何回もエコパークへ足を運んだ。その時に思ったことがある。訪れるたびに、公園が進化しているのだ。知らぬ間に公園の西側部分の遊歩道が完成していたり、自分も活動に携わった「カメの丘」も、目の位置が修正されていたりしていた。エコクラブの皆さんの行動力には、本当に驚かされる。知らぬ間に、自分もエコパークファンの一人になっていることに気が付いた。今度は家族を連れてゆっくりと歩いてみよう。 R

お知らせ information

市立御前崎総合病院 電子カルテ化します

市立御前崎総合病院では、医療の質の向上と患者サービスをより充実させるため、平成24年1月1日から電子カルテシステムを導入します。患者情報をコンピューター管理することで、診療録情報を院内で共有できるとともに、今後、他の医療機関とのデータ連携も可能になっていきます。今回の電子カルテ導入に伴い、病院の利用方法が一部変更となります。

【こんなところが変わります】

- ①診察券が、病院の写真入りのものになります。現在利用されているピンク色の診察券は、1月1日以降に受診された後に、総合受付で交換します
- ②自動支払い機でクレジットカードが利用できるようになります（Visa、Master、イオンカード）

照会 市立御前崎総合病院
☎0537-8511

平成24年度御前崎市 成人式を開催します

日時 平成24年1月8日(日)10時～
受け付け 9時～

会場 御前崎市民会館

※案内状は、平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれの人で、平成23年11月1日時点で、御前崎市に住民票がある人と浜岡・御前崎中学校を卒業した人に送付しています。住所変更などの理由で、ハガキが届かない人も成人式には出席できます。

照会 社会教育課
☎0548-1129

商工業振興に利子補給制度を活用しよう

金融機関から借入期間2年以上の融資を受けて設備投資した商工業者に利子補給します。

対象者 市内在住の市商工会員

対象設備 平成22年12月1日～平成23年11月30日までに融資を受けて整備した30万円以上の設備、または設備近代化資金、設備貸与制度の対象設備と店舗

対象限度額 5千万円以内

利子補給期間 5年以内

受け付け 平成24年1月4日(水)～1月16日(月)

照会 商工観光課
☎0537-1135

経済センサス活動調査にご協力ください

平成24年2月、全国全ての事業所を対象に経済センサス活動調査が実施されます。調査結果は、今後の震災復興の状況を確認するための貴重な資料になります。ご協力をお願いします。

照会 企画財政課
☎0537-1112

災害時こころのケア講演会を開催します

災害や震災による心の変化と子どもの心のケア、支援者の心のケア方法やセルフケアについて、小林朋子 県臨床心理士会 被害者支援委員長が講演します。

日時 平成24年2月1日(水)
18時30分～

会場 池新田公民館

講師 小林朋子 県臨床心理士

定員 先着100人

申し込み・照会 福祉課
☎0537-1121

家族が理解してこころの病とつきあおう

こころの病を理解するための「家族教室」を開催します。

日時 平成24年1月20日(金)、1月27日(金)、2月10日(金)いずれも13時30分～(全3回)

会場 市役所3階会議室

テーマ 第1回「精神科での治療」
第2回「困ったときの対処方法」
第3回「家族としてのつきあい方」

照会 福祉課
☎0537-1121

ヘルシーご飯の調理実習会でメタボ対策

メタボ予防のらくらく減量プランを紹介します。

日時 平成24年1月12日(木)、2月7日(火)いずれも18時30分～21時(全2回)

会場 浜岡健康センター

定員 先着25人

受け付け 12月26日(月)まで

申し込み・照会 国保健康課
☎0537-1171

ゴミ収集日を携帯電話から確認できます

全国各市町のゴミ収集日を検索できるインターネットサイト・53cal(ゴミカレ)に、御前崎市のごみカレンダーも掲載されました。携帯電話からも閲覧できます。メールアドレスを登録すれば収集日を無料でメール配信してくれるサービスもあります。



☎http://www.53cal.jp/area/?a_code=1220115

照会 環境課
☎0537-1162

かわいい！ おまえぎのたから 12月 生まれの 元気な子



たかぎ ゆずな
高木 柚奈ちゃん 1歳
(上埦区)



まつばり ひと
松林 凜人くん 1歳
(上埦区)



まつした みねこ
松下 美根子ちゃん 1歳
(中町)



そね あらた
曾根 新太くん 2歳
(佐倉二区)



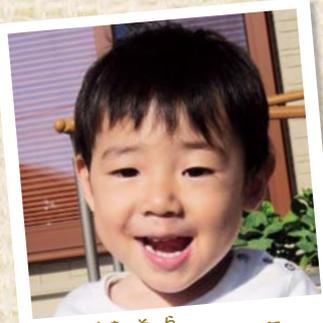
いしかわ はると
石川 陽太郎くん 2歳
(薄原区)



らちり はな
良知 裡菜ちゃん 1歳
(塩原)



すずき えな
鈴木 恵那ちゃん 2歳
(塩原)



すずき そら
鈴木 颯良くん 2歳
(塩原)

お子さんのかわいい笑顔
を広報へ掲載しませんか。
2月に誕生日を迎える1
歳～3歳児で本コーナー
へ掲載されたことのない
お子さんを募集します。
広報課へ電話でお申し込
みください。(先着順)
受け付けは 1月16日(月)8
時15分～となります。
☎0537⑩1132

今日の健康簡単レシピ



切り干し大根とじゃこのあえ物

材料(4人分)

切り干し大根……………40g
小松菜……………1株
ニンジン……………30g
じゃこ煮干し……………20g
ゆずポン酢……………大さじ3
だし汁……………大さじ1
ごま油……………大さじ1/2

- ①切り干し大根を水で戻す。
- ②戻した切り干し大根を2～3分煮る。
- ③じゃこへ熱湯をかけ、ざるに上げて水分を切る。
- ④小松菜はさっとゆで、細かく切る。ニンジンも千切りにしてさっとゆでる。
- ⑤②③④をゆずポン酢、だし汁、ごま油であえる。

※カルシウムが多く、歯にもよい献立です。

〈御前崎市健康づくり食生活推進協議会〉

▶ 1人分 65 kcal